

鍼灸医療50年に学ぶ

鳥取県 まつおか鍼灸院 松岡 義人

[はじめに]

私は、1961年3月に鳥取県の行う鍼灸師資格試験に合格した。当時は鳥取大学医学部の理学診療科の研修生として勤務し、その後配属された鳥取赤十字病院の整形外科理学診療科で勤務する。病院では整形外科に所属し、外科、内科、小児科等の関係の患者のリハビリを中心にその施術を担当した。

1964年8月、理学療法士法の成立によって全国の病院で勤務する鍼灸マッサージ師は、他の医療従事者と共に240時間の厚生省の認定講習会と5年間の期間限定による国家試験特例試験によって新しい時代が始まる。

[教育現場への転職]

1967年4月、鳥取県の採用試験を受けて母校である鳥取盲学校の理療科職員として勤務。同年に採用になった同僚と教科内容の棲み分けをした結果私は主に理学療法に関わる基礎医学と臨床、そして外来実習の教科を担当した。

夏期休業中には東京教育大学付属盲学校で行われる理療科教員の再教育セミナーに参加し、芹沢勝助先生を中心とした教授人の講義を受講し今日の理療科教育の基礎となるものを研修する。

中でも鍼灸医療の基礎研究については、国際的に文献が増えて来たのは1980年代で、一つのテーマを複数の先生方と共に共同研究をすることにより、多くの同じ疾患の症例数の数を増やすことを推奨された。

[鍼灸院の開業]

2001年4月。定年退職後入会した全日本鍼灸学会で鍼灸業界のその進化にびっくりした。全国学会に参加した回数は現在までに13回。特に婦人科領域のセッションには積極的に参加した。

2002年4月より開業。地域にはすでに3カ所に鍼灸院があり、特色ある施術方法に特価しなければと意識づける。

2003年1月から7年間、日本鍼灸師会認定の講習会を岡山県鍼灸師会のご厚意により鳥取県から5名の先生が参加した。「婦人科疾患専門領域」及び「鍼灸医療リスクマネジメント」の生涯研修を30回120時間を受講する。

研修内容の検証にあたり2003年10月からはそれまで経験則で行っていた不妊治療の臨床に積極的に取り組みそのEBMと代替医療の効果について検討する。

[臨床報告とその結果]

実践と臨床報告は、不妊治療に関するもので、周期療法や高度生殖医療に併用した鍼治療にともなうものばかりである。鳥取県鍼灸マッサージ師会主催事業による研修会、鳥取県視覚障害者福祉協会三療部での報告や、岡山県鍼灸師会青年部の経営研修会の講師、島根中医学会の「話題提供コーナー」における報告、東洋療法推進大会、全日本鍼灸学会中国四国支部学術集会の発表（3回）など多数ある。臨床報告をすることにより多くの先生方の評価と指導・交流をいただいたことは何よりもの学びのときとなった。

*それぞれの会の詳細の抄録は各発表ごとに提出済みであるのでここでは省略する。

[今後の課題と展望]

第2のカルテと位置づけている開業以来保存している患者さんとのやりとりのメールは1万件を超え、その中には120組を超える家族に新しい命が誕生した喜びの声や、妊娠途中で流産や死産を経験されるものの再起をかけて治療に望まれる患者さんの真摯に向き合う報告に涙することもあった。

それだけに専門家ではないがカウンセリングを取り入れて患者さんに寄り添って診させていただく治療や、最前線の西洋医学的なデータを快く提供してくださる患者さんに多くのことを研修させていただいたことには感謝している。

1. 患者さんが鍼灸医療に何を求めているかの検討。
2. 施術効果の検討
3. SNSの充実
4. 異業種との交流により最新の経営方法と自らの研修の検討。
などこれからも地域医療のために努力して行きたいと思っている。